

嶺南地域の公共交通に関する今後の取り組みについて

(概要)

これからの嶺南地域の公共交通を考えるための視点（ねらい）

地域の概況

- 高齢化が進展。活発な外出への支援はますます重要。
- 日常生活に必要な施設は概ね各市町に立地。大きな病院・店舗等は敦賀・小浜に立地。
- 多くの高校生が、嶺南地域内で通学。
- 高い自動車保有率・免許保有率。
- 観光資源が豊富、駅から離れて立地。各市町にとって観光振興は大きなテーマ。

公共交通の概況

- 小浜線と、主要駅に発着する路線バス、市町内のコミバス等によるネットワーク。市町間の移動、嶺南地域の周遊には不便な面。
- 公共交通は何れも、利用客が少なく運営面で厳しい状況。

地域住民の暮らしの面での現状等

- 小浜線の利便性、安心感の向上へのニーズが高い。
- 日常生活は概ね市町内で充足。他市町への外出や、複数の場所を回るニーズもある。
- 市町内の外出で、コミバス等の充実へのニーズ。市町内に不便地区が点在。
- 高校生の大半が小浜線、自転車等で通学。クルマでの送迎も多い。
- 居住者のクルマ志向が強く、クルマ中心のライフスタイル。
- 嶺南地域全体の公共交通が、居住者にも認知・理解されていない。
- 将来の交通手段に対する不安。公共交通と人が中心の賑やかなまちへの意向。

観光での来訪、周遊の促進の面での現状等

- 現在は、観光客の大半が、クルマで来訪。
- 嶺南地域を“周遊”するスタイルの観光客は少数派。小浜線利用客は、駅徒歩圏等で観光。
- 小浜線やバス等の魅力は“風情・景色”。ただしそれを知る人は少ない。
- 嶺南地域全体の観光スポットと公共交通が、来訪客にとってわかりにくい。公共交通で周遊する観光がイメージにない。
- 北陸新幹線の敦賀開業で、来訪客の増加に期待。現状のままでは、嶺南地域全体には波及できない危惧。

嶺南地域の公共交通のこれからの課題

（地域住民の外出への支援、 将来にわたる公共交通の持続）

- 今後高齢化が進んだ状況においても、活発な外出を支援するため、公共交通を充実する必要があります。
- 小浜線を東西の基軸とし、通学や買い物、通院など、日常の市町間での移動、各市町内での移動等に、より便利となる公共交通の運行方法等について、検討していく必要があります。
- 高齢者、高校生等にとって、公共交通は不可欠ですが、利用客が少なく、また乗務員確保も厳しい現状にあるため、より多くの人に利用され、将来まで持続する公共交通を目指す必要があります。

（観光振興への貢献、周遊観光の促進）

- 北陸新幹線の敦賀開業も見据え、より多くの集客を図るとともに、嶺南地域全体への広がりを図れるよう、観光交通手段として貢献する必要があります。
- 特に、現状では、公共交通での観光のイメージがなく、クルマでの来訪客が大半であり、また、周遊するには公共交通が不便な面があり、嶺南地域を周遊するような観光客は少数派です。移動手段の面から、この状況を改善することが必要です。

（意識・ライフスタイル等の変容、 抵抗感の軽減等）

- 嶺南地域の住民は、現状では、クルマ志向が高いため、仮に公共交通が充実したとしても、利用されずクルマが選択される危惧があります。
- 観光客には、観光地と公共交通が分かりにくく、地域住民も他市町のバス等は分かりにくく抵抗感がある状況です。
- これらの現状を改善するため、交通手段選択の考え方・ライフスタイル等を変えるとともに、公共交通への抵抗感を軽減することが必要です。

嶺南地域の公共交通のこれからの課題



これからの嶺南地域の公共交通を考えるための視点（ねらい）

目指す姿

『地域住民の活発な外出を支えるとともに、
観光客の周遊促進に貢献し、
多くの人々に利用されることにより、
将来まで持続する嶺南地域の公共交通』

■ 嶺南地域の「居住者等の日常生活」
の移動支援、公共交通での外出行動
の活発化

■ 嶺南地域全体への「観光来訪、周遊
観光等」の促進

■ その他（考え方・ライフスタイルの変
容、案内・ホスピタリティの向上等）

今後の取り組み（メニュー・アイデア等）

これからの嶺南地域の公共交通を考えるための視点（ねらい）

■ 嶺南地域の「居住者等の日常生活」の移動支援、公共交通での外出行動の活発化

取り組みの方向性

（今検討を行っていくメニュー・アイデア等）

(1) 東西方向の基軸である「小浜線」の利便性・安心感を向上させる

(2) 「市町間」の外出に便利な「移動手段」を充実する
（他市町の目的地へバス等で直接行けるようにする等）

(3) 「各市町内」での「移動手段」を充実する

■ 嶺南地域全体への「観光来訪、周遊観光等」の促進

(4) 嶺南地域内の「周遊」に便利な「移動手段」(バス等)を提供する
（小浜線とバス等を組み合わせて周遊できるようにする等）

(5) 公共交通での「来訪」の動機づけとなるインパクトある「乗り物」を導入する

(6) 公共交通を使った「周遊」の動機づけとなる「企画」を行う

(7) 小浜線と「自転車」による「周遊」を促す

■ 考え方・ライフスタイルの変容、案内・ホスピタリティの向上等

(8) 嶺南地域に「住む人」の交通手段選択の「考え方・ライフスタイル」を少しずつでも変える「仕掛け」をする

(9) 不慣れな路線についての案内を充実し、抵抗感を軽減する
（異なる市町へ出かける高齢者、初めての観光客等）

(10) 鉄道・バス等への愛着（まもる意識）を高める

